

**CAESAR NEWSLETTER**

第14号 2016年1月

土木研究所構造物メンテナンス研究センター  
〒305-8516 つくば市南原1-6  
電話029-879-6773  
e-mail: caesar @ pwri. go. jp  
http://www. pwri. go. jp/caesar/index-j. html

**年頭のご挨拶**

構造物メンテナンス研究センター長 野口 宏一



明けましておめでとうございます。年頭にあたりご挨拶申し上げます。

土木研究所構造物メンテナンス研究センター（CAESAR）は本年、平成20年4月の設立から8周年を迎え、9年目の活動に入ります。

昨年も、実橋における研究成果の適用性の検証、民間技術の活用や試験フィールドの提供、学との連携による研究の促進のために、産学官との連携・共同研究による効率的・効果的な研究を精力的に進めて参りました。これらの研究成果は、CAESAR 講演会をはじめ各種研究集会等で報告するとともに、道路橋示方書等関連技術基準の策定・改定にあたっての基礎資料となっています。また、国土技術政策総合研究所と連携して、現地で生じた不具合に対する技術指導や設計に関する技術指導等を行い、これらの指導内容をナレッジとして蓄積するとともに、各地方整備局の橋梁担当者を集めた橋梁担当者会議等を通じて現場にも情報提供や留意点等の助言を行って参りました。

土木研究所は昨年4月、「独立行政法人土木研究所」から「国立研究開発法人土木研究所」と名称を変更しました。土木研究所は、政策として、「科学技術に関する研究開発を主要な業務として行うことにより、我が国における科学技術の水準の向上を通じた国民経済の健全な発展その他の公益に資するため、研究開発の最大限の成果を目指す」組織として新たなスタートを切りました。その土木研究所の中にあつて CAESAR は、新設橋梁の設計施工、維持管理技術の高度化、災害復旧の迅速化等の道路橋の安全管理のための構造技術に関する総合研究機関として、研究開発や現場への技術支援を行ってきたところですが、今まで以上に研究開発を推進するとともに、関係機関と積極的に連携し、成果の最大化を実現していく所存です。

CAESAR では「荒廃する日本にしない」「災害脆弱国家・日本にしない」を掲げ、「要求性能の提示、評価と基準化」を目的として研究開発に取り組んでいます。そのような中、昨年、建築分野では「支

の性能偽装」や「杭の打込み工事におけるデータ改ざん」があった事例が明らかになり、大きな問題として取り上げられました。こうしたことから、要求性能を確保するための前提である施工品質の確保が、喫緊の課題となっています。

また、道路法施行規則の一部を改正する省令（平成26年3月公布）により、5年に1回の頻度、近接目視等が道路の点検基準として規定されるとともに、円滑な点検の実施のための技術的助言として26年6月には「定期点検要領」が策定されました。これまで以上に、点検→診断→措置→記録というメンテナンスサイクルの適切な構築が求められています。メンテナンスサイクルを適切に回す上でも、新設橋の施工品質の確保は不可欠です。CAESAR では、本年から次期中長期計画の研究がスタートしますが、「新設橋の品質・信頼性向上方法の構築」に向けた研究にも取り組んでいく予定です。

さらに、先に触れたように法定定期点検の進展に伴い、要対策と診断される部位を有する橋梁の増加が予想されますが、財政的制約等により短期に全てに対応することは困難な状況です。限られた財源の中、既設構造物の健全性を評価し、維持管理を適切に行うため、また新設橋においては維持管理性、耐震性の高い構造物とするために、「既設橋の合理的な性能評価手法および補修・補強技術」、「超過外力に対する道路橋のレジリエンス技術」、「地盤・基礎を含めた橋全体系の耐震性能評価技術及び耐震補強技術」等の研究にも精力的に取り組んでいくことが重要と考えております。

このように、CAESAR の役割は益々重要となっており、「現場支援」、「研究開発」、「情報交流の場」のミッションを着実に果たすよう CAESAR の職員一同、たゆまざる努力を続けて参りますので、本年も皆様のご理解とご協力をお願いいたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。